

常務理事就任にあたって



公益財団法人 ダイア高齢社会研究財団 常務理事
高阪 肇

本年4月より佐藤一三前常務理事の後任としてダイア高齢社会研究財団の常務理事に就任いたしました。昨年度設立30周年を迎え、また新たな一步を踏み出す時機に、財団に貢献できる機会を得て、大変光栄に思っています。微力ではありますが、業務に精励・貢献して参る所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

さて、この数年にわたったコロナ禍もようやく終息を迎え、輸出やインバウンドを中心に世の中の景気回復の兆しが見える中、高齢化は着実かつ急速に進展しており、当財団の使命・役割の重要度は日々増してきていると思います。

今後も一層の高齢化が進む中で、私たちは複合的かつ深刻な社会的課題に直面しており、これは高齢者のみならず、若い世代にまで大きな影響を既に及ぼしています。これらの諸課題に対処するためには、包括的で効果的な施策をあらゆる世代を巻き込んだ社会全体で考え、取り組んでいく必要があると思います。当財団がその取り組みの基礎となる調査や最新の知見やベストプラクティスの研究を産・学・官・民と連携しながら実行し、社会に還元することは、大きな使命だと考えています。

また、私たちの活動は単なる理論や研究に留まるものではありません。現場での実践において、地域社会との連携を深め、現実の課題に対処していくことが不可欠です。当財団では地域社会とのパートナーシップを強化し、地域の声を反映した施策やプログラムを引き続き推進していく予定です。高齢者向けのエアロビクスの「ダイヤビック」などはその一例です。また本年度は当財団が早くから課題ととらえ、年々社会的関心が高まっている「仕事と介護の両立」をテーマにした「三菱グループ・リサーチモニター・プロジェクト」を賛助会員各社のご協力のもと展開していく予定です。段階を設けながらアンケートを実施・解析することにより深くかつ正確に本課題の実態を掘り下げて考察していきたいと考えます。

当財団の成果は一朝一夕で得られるものではありませんが、地道な調査や研究および実践やそれらの対外発信を積極的に行うことにより、超高齢社会の課題克服に向けての意識啓発および活動成果の普及を目指してまいります。

最後になりましたが、引き続き財団の活動に対し、倍旧のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。